

学部名	保健医療福祉学部	学科名	作業療法学科
-----	----------	-----	--------

作業療法学科のDP(ディプロマ・ポリシー)

DP1	知識・理解	作業療法の国家試験に合格できる基本的な知識を学習しており、さらに新しい知識や最新の技術に対し日頃から関心を持ち、それらを学習する積極性を身に付けている。
DP2	思考・判断	作業療法の実践に必要な基本的な臨床的思考と判断能力を備え、またそれらを対象者の個々の障害に合わせて応用できる思考力と判断力を身に付けている。
DP3	技術・行動	基本的な作業療法の技術を有し、さらにそれらの技術を高める努力を常に意識し行動でき、また経験のある作業療法士の指導のもとで適切な治療方法や手段を選択し実施できる。
DP4	態度	病気や障害、そして痛みや不安を持つ対象者の心に寄り添い、ともに喜び、ともに悲しむ共感性を持ち、それらの方々の尊厳や主体性を尊重し、倫理観にもとづいた作業療法実践を展開することができる。

※学科のDP達成のために、特に必要な事項◎、重要な事項○、望ましい事項△

授業科目	授業科目	授業科目	単位数	配当年次	テーマと到達目標	DP1	DP2	DP3	DP4
総合A群	吉備国際大学の学び	吉備国際大から世界へ	2	1	この科目の到達目標として、受講生は、本学の所在地である備中高梁という場所が地域文化圏「吉備の国」としてどのような文化的・歴史的特色があるのかを十分に理解し、さらに、世界の文化や社会の多様性を学ぶことによって国際人となるための基礎を身につける。 毎回異なる講師によるオムニバス形式によって実施される。備中高梁(吉備の国)の自然環境、歴史、精神風土についての基礎知識を学ぶ。さらに、日本と世界とのつながりについてグローバル化の意味とその影響に注目しつつ、世界各地の社会・文化事情の解説を通じて、ローカルな日常世界とグローバルな国際社会との関係性を考え、多文化共生の基本的な意義と課題について理解する。	◎			
		地域学概論	2	1	地域の諸問題については、高梁市の各部署より講師を招き高梁市の現状と今後の課題を教授して貰うとともにグループ討議を行い、積極的に問題解決能力を養う。 また、地域でボランティアを行っている学生より体験談を聞き今後の地域社会への貢献について考える。	○	◎		
		地域貢献ボランティア	2	2	キャリア教育の一環として社会人基礎力を身に付けるために、地域貢献ボランティアをおこなう。具体的には、ボランティアの社会的役割やボランティアの意義、活動時の注意事項等について学んだのち、地域から要請を受けたボランティア活動を10コマ分(20時間以上)行なう。ボランティア活動は、ボランティア活動予定表(5月～1月末まで)から活動時間合計が20時間以上になるよう選択し、活動をおこなう。その後、ボランティア活動報告書(1,000字以上)を作成し、グ			◎	○
	キャリア教育科目	キャリア開発Ⅰ	2	1	卒業後の社会人としての人生に向け、4年間の大学生生活でいかにキャリアを積み上げるかを考え、卒業までの過ごし方を計画(自己のキャリアデザイン)し、実行を始める。 社会が求める人間像(自主性、責任感、協調性、教養、分別等)を学び、自己分析力を身につけ、卒業までの各節目に常に自己分析をし、その時点で何を身につけるべきか、何をすべきかを考えることができるようになる。				◎
		キャリア開発Ⅱ	2	3	自らに適した進路選択を具体的にを行い、就活力を身につけることを目標とする。合同授業は、外部講師等による就活に向けた実践講座等である。各学科の学科単位の授業は、それぞれの進路に対しての具体的な指導等である。またキャリアポートフォリオを就活に活かせるようになることを目指す。		○	◎	
	情報教育科目	情報処理Ⅰ	2	1	情報のデジタル化、コンピュータ開発の歴史、コンピューティングの要素と機構、ハードウェア、ソフトウェア、文書作成、プレゼンテーション、ネットワーク、情報検索、コンピュータによる問題解決、セキュリティ、情報モラル、情報システムの利用と社会問題などについて学習し理解を深める。				○ ◎
		情報処理Ⅱ	2	1	情報処理Ⅰで学んだ基礎知識をもとにより高度なコンピューティングの要素と機構、ハードウェア、ソフトウェア、文書作成、プレゼンテーション、ネットワーク、情報検索、コンピュータによる問題解決、セキュリティ、情報モラル、情報システムの利用と活用方法を学び社会で活用できる能力を養う。				○ ◎
	言語教育科目	英語Ⅰ	2	1	英文法の復習と語彙力の強化する。英文法は、英語での自己表現に最小限必要な文法事項を中心に、練習問題を解いたり、課題英作文や自由英作文に取り組んだりすることで、中学・高校とで習った文法の復習をしていく。また、学生同士のペアワークとして、コミュニケーション練習なども行う。語彙については、大学生の日常生活に結びついた身近な語を多く取り上げ英語力を養う。	◎			○
		英語Ⅱ	2	1	主な内容は英文法の復習と語彙力の強化である。英文法は、英語での自己表現に最小限必要な文法事項を中心に、練習問題を解いたり、課題英作文や自由英作文に取り組んだりすることで、中学・高校とで習った文法の復習をしていく。また、学生同士のペアワークとして、コミュニケーション練習なども行う。語彙については、大学生の日常生活に結びついた身近な語を多く取り上げる。	◎			○
		英語Ⅲ	2	2	この授業はテキストの予習をしっかりとやれば高校以上の難易度の長い文章が読めるようになります。基本的な文法の復習や語彙に加えて読解力をつけることを目標にしています。また、全文のテキストのテープを聞く、訳を自分でしてもらうことで自分の実力を客観的に把握できるような授業を行います。教科書を自宅で声に出して音読することでスピーキングの力がつくよう各自の予習も必須です。英会話の中級に近い程度の会話ができるようになります。	◎			○

授業科目	授業科目	授業科目	単位数	配当年次	テーマと到達目標	DP1	DP2	DP3	DP4
総合A群	言語教育科目	英語Ⅳ	2	2	この授業ではしっかり予習と復習を行うことで学生は大学初級程度のテキストの長文が読めるようになります。文法の復習は英語ⅠとⅡで既に行っており、春期はそれを前提に内容把握に焦点を当てていましたが、秋期は読解のスピードが上がることを目標としています。 教科書を自宅で声に出して音読することでスピーキングの力を付けてもらうことも一年を通して目標としていますが、後期はテープを聴いてもらい大意が把握できるような練習をすることで、より総合的に力をつけることを目標としています。	◎		○	
		フランス語Ⅰ	2	1	テーマ:「こんにちは」「さようなら」などの基本的な挨拶をフランス語で行う。到達目標は、アルファベットを確実に暗誦でき、アランダムに示された文字を正確に発音できる。発音されたアルファベットを書き取る。数字を1から20まで暗唱する。自分の名前や国籍を言う。覚えた歌を歌う。等の授業中に示された課題をクリアすること。	◎		○	
		フランス語Ⅱ	2	1	前期に引き続き、フランス語の歌を使って、綴り字の読み方、発音、基本的な語句や表現、文法などを学習する。また、自己紹介に必要な表現を学習する。数字を1から100まで言えるようにする。ビンゴゲームで数字を聞き取る練習をする。等の授業中に示された課題をクリアする毎に得点する。	◎		○	
		フランス語Ⅲ	2	2	フランス語の歌を使って、綴り字の読み方、発音、基本的な語句や表現、文法などを学習する。歌詞の発音や意味に加えて、その歌や歌詞の背景や歴史についても知ってもらいたい。分からないことをフランス語で質問する。自己紹介をする。数字を1から100まで暗唱する。覚えた歌を歌う。等の授業中に示された課題をクリアする毎に得点する。	◎		○	
		フランス語Ⅳ	2	2	フランス語の歌を使って、綴り字の読み方、発音、基本的な語句や表現、文法などを学習する。歌詞の発音や意味に加えて、その歌や歌詞の背景や歴史についても知ってもらいたい。分からないことをフランス語で質問する。自己紹介をする。数字を1から100まで暗唱する。覚えた歌を歌う。等の授業中に示された課題をクリアする毎に得点する。	◎		○	
		ドイツ語Ⅰ	2	1	ドイツ語の単語と文を正しく発音するためのルールを知り、動詞や名詞を中心にした基礎的な文法を学習する。そのことによって「ドイツ語Ⅰ」の終了時には、初歩的かつ日常的なドイツ語会話に必要な語彙と文を、読んだり聞き取ったりできるようになる。なお、ドイツ語の授業は、2年間の学習後には「ドイツ語検定(独検)Ⅴ5級に挑戦できるレベルに達することを目標としており、1年次の授業はそのための重要な第一歩となっている。	◎		○	
		ドイツ語Ⅱ	2	1	日常的な会話表現に触れながら、ドイツ語の基礎的な文法事項についての学習と理解をさらに深める。そのことによって「ドイツ語Ⅱ」の終了時には、平易な日常会話での様々な応答表現が読んだり聞き取ったりできるようになる。なお、ドイツ語の授業は、2年間の学習後には「ドイツ語検定(独検)Ⅴ5級に挑戦できるレベルに達することを目標としており、1年次の授業はそのための重要な一歩となっている。	◎		○	
		ドイツ語Ⅲ	2	2	テーマ:ドイツの社会・言語・文化を多面的に学ぶ 到達目標:「動詞句・名詞句・副詞句」を理解して、コミュニケーションのためのドイツ語能力の基礎を固める	◎		○	
		ドイツ語Ⅳ	2	2	テーマ:ドイツの社会・言語・文化を多面的に学ぶ 到達目標:「動詞句・名詞句・副詞句」を理解して、コミュニケーションのためのドイツ語能力の基礎を固める	◎		○	
		中国語Ⅰ	2	1	中国語によるコミュニケーション技能の習得(入門編)。中国語を約2年間学んだ学生が2年次秋期の3月に「中国語検定試験」準4級を受験できるレベルに到達するために段階的に到達目標を設定している。 中国語Ⅰでは、初めて中国語を学ぶ学生諸君を対象に、聞く・話す・読む・書くといった、総合的な中国語力の基礎づくりを目標とする。まず発音を完全にマスターすることを旨とする。その後、発音の練習と並行して、初級文法、簡単な日常会話、応用のきく句型などを習得する。 本講義のラーニングアウトカムズは「コミュニケーション・スキル」と「多文化・異文化理解」である。	◎		○	
		中国語Ⅱ	2	1	中国語によるコミュニケーション技能の習得(基礎編)。中国語を約2年間学んだ学生が2年次秋期の3月に「中国語検定試験」準4級を受験できるレベルに到達するために段階的に到達目標を設定している。 中国語Ⅱでは、前期で学習した中国語の基礎を基に、やや高度な文法事項、表現等を習得し、読解力と会話力を養い、総合的な中国語力の基礎をつくり中国語検定準4級の獲得へつなげていくことを目標とする。 本講義のラーニングアウトカムズは「コミュニケーション・スキル」と「多文化・異文化理解」である。	◎		○	
		中国語Ⅲ	2	2	中国語によるコミュニケーション技能習得のための方法と理論を指導(検定試験対応・前篇)する。中国語検定試験準4級に出題されている問題を解くために必要な文法事項を理解し、語彙力や会話力や読解力を身につけて実際に検定試験準4級に挑戦することができるようになる。	◎		○	
		中国語Ⅳ	2	2	会話を中心とした日常レベルの中国語を発音したり聞き取ったりできるようになる。	◎		○	

授業科目	授業科目	授業科目	単位数	配当年次	テーマと到達目標	DP1	DP2	DP3	DP4	
総合B群	人間性の涵養	文章表現入門	2	1~4	大学生、あるいは社会人として必要とされるであろう日本語の基本的な運用能力の獲得を、この授業の主要なテーマとする。日本語の円滑な運用に必要な重点項目を毎回順番に学習することにより、確実な日本語基礎力を身につけることが出来る。また、この授業の中では日本人のための「日本語検定」を紹介しており、受験に対しての指導も合わせて行う予定である。		○		◎	
		文学への招待	2	1~4	本講義では、詩・俳句・短歌・小説等の文学作品を読み鑑賞することを通して、作者が描いた人間の生き方を間接的に経験し、学生が自分自身の生き方を多様で豊かなものにしていくことを目的とする。さらに、その過程において、文学に使われている語彙や巧みな言語表現、文学作品にみられる豊かな構想力を自己のものにし、自己の言語表現能力の向上をめざすものである。		○		◎	
		美術の見方	2	1~4	美術作品の見方について考え、一人ひとりが美術の見方を身につけることを目的とする。美術作品の「見方」といっても2つの考え方がある。1つめは、美術作品について客観的に知識として学習する見方であり、2つ目は、主観的に興味を持ち疑問を投げかけてみるような見方である。前者にはある程度の答えがあり、後者には答えは無い。ここでは、2つの見方を組み合わせて対話型鑑賞を行い、美術の見方を考えることで、自分の美術の見方ができるようになる。		○	◎		
		音楽の楽しみ	2	1~4	テーマは「音楽とは何か」。人類は、なぜ音楽を創り出し、そして継承してきた。現在音楽は、生活の様々な場面まで深く浸透している。しかし、冒頭の問いに直ちに的確に答えることはできない。本講座では、人と音楽との関係、音楽そのものについて考察し、冒頭の問いに対して自分なりに回答できるようになる。		○	◎		
		生涯スポーツ論	2	1~4	スポーツ・運動の基本的内容を理解し、実生活で活用できることを到達目標とする。		○	◎		
		生涯スポーツ実習	1	1~4	生涯スポーツ実習を通して、スポーツの楽しさを理解し、好きになってもらう。スポーツの楽しさである、人と関わる楽しさ、極める楽しさ、協力する楽しさ、創意工夫する楽しさ、考える楽しさ、勝敗の楽しさを理解することができる。 近年、社会環境の変化による、外遊びの減少、運動経験不足、基礎運動能力の低下が挙げられる。自分自身の体を自由自在に動かすことができるように、全身のコーディネーションと体幹の安定化を高める事ができる。全身持久力を高める事ができるようにボールを使った球技の中で、たくさんのボールにさわって、たくさんプレーすることによって高めることができる。		○	◎		
	世界認識・自己理解	哲学	2	1~4	哲学という言葉は無造作に使われることが多い。しかし本来哲学は、古代ギリシャに端を発する一つの、極めて重要な知的伝統である。講義では、この知的伝統をたどりつつ、世界と自分について、自分の頭で考えることを目指す。			◎		○
		宗教学	2	1~4	世界の歴史の中でどのような宗教が存在してきたか、そしてそれらが現代の我々にどのような影響を及ぼしているのかを知ること。			◎		○
		倫理学	2	1~4	我々にとって身近な「暇と退屈」を分析する。暇はあるが退屈はしないという、よき人生はどのようなものか考える。そして学生各位に自分固有のよき人生への指針を与えることが目標である。			◎		○
		心理学	2	1~4	心理学は心の働きについて科学的に研究していく学問である。人が生活している環境からいかに情報を取り入れ、蓄積し、利用するのか、あるいは、いかに人間関係のなかで適応的に生きているのかなどについての学びを通して、心理学のおもしろさに触れ、心理学の基礎的な考え方を理解することを到達目標とする。			◎		○
		多文化理解	2	1~4	テーマ：本講では、文化人類学的視点に基づいて伝統的社会から近代的産業社会までの様々な人間集団の文化(生活様式、社会制度・習慣など)を比較・考察する。そうすることにより、「文化の多様性」を通して人間とは何かをより広い角度から理解する。 到達目標：様々な社会や民族に見られる異なった、独自の生活様式や思考様式、すなわち「文化」を価値判断抜きに比較、考察、理解することができる。またそうすることにより、広い視野と寛容性を身につけることができる。			◎		○
	社会と制度	日本国憲法	2	1~4	<テーマ> 難解とされる日本国憲法における基本的論点を、判例やニュースを織り交ぜながらできるだけ平易に解説すると同時に、日本国憲法の将来を自分で考えるために必要と思われる情報を提供する。 「人権」について理解を深める。 <到達目標> 主権者として必要とされる日本国憲法の知識を身につけ、さらに憲法改正につき論理的に自己の考えを述べることを目指す。 「人権」について正しく理解し、快適な社会づくりに貢献できることを目指す。	◎	○			
		民法	2	1~4	民法は、皆さんが社会生活をする上でのトラブルを解決するルールを定めていますので、民法を学習することにより、社会生活に役立つ実用的な知識が身に付きます。また、公務員試験や資格試験などの多くに試験科目として採用されていますので、これらの試験を目指す人にとっては、必修の科目といえます。したがって、この授業では、次のステップとしての公務員試験や資格試験の勉強に円滑に移行できることも念頭に置いて、民法の基礎を理解し記憶することを目標とします。	◎	○			
		経済学	2	1~4	経済学を学ぶもっとも重要な理由は、自分が暮らしている世界を理解するのに役立つということである。日常生活で目にするさまざまな経済的現象に関する分析的思考を修得する。とりわけ我々の生活への応用可能性を探ることに重点をおく。具体的には市場における消費者や企業といった経済主体の経済活動の背後論理を理解し、価格メカニズム、豊かさの意味合いと国民所得、経済成長および経済政策などと実生活とのかかわり合いについて理解を深めることができる。	◎	○			

授業科目	授業科目	授業科目	単位数	配当年次	テーマと到達目標	DP1	DP2	DP3	DP4
総合B群	社会と制度	社会学	2	1~4	本講義の到達目標としての掲げる中心的テーマは以下のようである。 ①社会学に関する、基礎的な考え方・見方を身につける。 ②人の生活や一生について、社会学的な視点から理解を深める。 ③身の回りの出来事を、社会学的な視点から分析できるようにする。	◎	○		
		人権と政治	2	1~4	●授業の到達目標及びテーマ:世界レベルで問題となっている、様々な「人権」について、標準的な知識を身につけることを目標とする。	◎	○		
		社会と統計	2	1~4	●統計学の基本的な考え方を実例を見ながら習得すること。 ●実際に応用分析ができるようになることをめざす。	◎	○		
	自然と数理	環境科学	2	1~4	環境、生態系、生物多様性、物質循環及び食物連鎖等の生命と環境についての基礎的な知識を修得し、近未来に人類が直面すると予想されている様々な環境問題、世界規模で流行が懸念される感染症などを取り上げ、それらへ対応するための知識修得を行う。	○	◎		
		物理学	2	1~4	物理の基礎。簡単な計算ができること。計算を通じて考えられること。物理的な見方ができるようになること。	○	◎		
		生物学	2	1~4	[テーマ]:最近の生物学関係の進歩はめざましいものがある。それらを少しでも理解できるよう、生物について、人間について、分子、細胞、組織、構造、進化など様々なレベルで基本的理解を深め、医学、環境問題などの生物学的現象についての理解力・思考力を身につける。受講することにより、新たな知識を丸暗記するのではなく、過去の知識と関連づけながら理解し思考する習慣を少しでも身につける。 [到達目標]:人間は生物であることを再認識する。人間は様々な生物の世界がなければ生きていけないことを理解する。生物は生きていくために栄養が必要であることを理解する。生物は進化してきたことを理解する。進化とはどのような現象でどのように起こるのかを理解する。生物学は科学の一つであること、科学とはどのような学問であるかを理解する。原核生物と真核生物の違いが分かる。ウイルスと、生物との違い、細菌との違い、が分かる。細菌と真核単細胞生物とが区別できる。病原体には、ウイルス、細菌、原生生物などがあることがわかる。人間の免疫とはどのようなものであるかおおよそわかる。真核多細胞生物は動物と植物と菌類であることが分かる。有性生殖と無性生殖の違いが分かる。多細胞動物の体が、体細胞と生殖細胞からできていることを理解する。遺伝子と染色体との関係が理解できる。遺伝子を構成する物質がDNAであることが分かる。同じ両親から生まれる兄弟は、約70兆以上の遺伝子の組み合わせから生まれることを理解する。双生児の1卵性と2卵性の違いを理解する。	○	◎		
		化学	2	1~4	本講義では基礎的な化学知識の学習に重点におき、また日用品、生活に必要な薬品化学や界面化学分野の項目も取り上げ、将来の職業にも役立つ知識の修得を目指したい。	○	◎		
		人類生態学	2	1~4	人間社会を理解する上で必要となる諸概念や、さまざまなレベルの社会分析の枠組みを理解する。特に、「社会システム」「文化」「社会組織」「エスニシティ」「地域」「コミュニティ」など、通常何気なく目や耳にしたり、使用している用語を改めて社会的に問い直してみる。基礎力を養った上で、現代日本社会の特性を、具体的な社会問題や社会現象に則して探求していく。	○	◎		
		統計学	2	1~4	統計学の基礎概念を、実例を通じて習得し、将来の応用をめざす。	○	◎		
		数学	2	1~4	医療系の学習を進める上で将来必要となる数学的知識の習得	○	◎		
総合C群			1~4	入学した学科で学ぶ専門領域以外に様々な分野や世界、価値観があることを知り、また理解することを目的としている。社会人となったとき幅広い知識を身につけるために他領域について「個々をやや深く」学ぶ。		○	△	△	

学部名	保健医療福祉学部	学科名	作業療法学科
-----	----------	-----	--------

作業療法学科のDP(ディプロマ・ポリシー)

DP1	知識・理解	基礎医学、臨床医学や作業療法学に関する基本的な知識について学修し、理解している。さらに、作業の知識や作業療法理論を活用し、人の行動を分析することができる。また、新しい知識や最新の技術に対し日頃から関心を持ち、それらを学修する積極性を身につけている。
DP2	思考・判断	医学や作業療法学に関する基礎知識を活用し、演習や実習を通して、知識と技術を臨床実践に結びつけることができる。また、作業療法実践の体験を通して、基本的な臨床的思考と判断能力を養い、それらを対象者の個々の問題に合わせて応用できる実践力を身につけている。
DP3	技術・行動	医学や作業療法学に関する演習や実技を通して、対象者に必要な評価や介入を身につけている。さらに、作業療法の対象者に対して、臨床実習指導者と共に必要な評価を行い、その結果に基づいて支援計画を立案し実施することができる。また、作業療法参加型実習を通して、各施設での作業療法を繰り返し経験することで、作業療法士として必要な技術・行動を修得している。
DP4	態度	他学生と共同して学習に取り組む中で、自己管理能力を身につけ、相手の尊厳、主体的を尊重できる豊かな人間性をもっている。また、倫理観、責任感に基づいた作業療法実践を展開できる態度を身につけている。

※学科のDP達成のために、特に重要な事項◎、重要な事項○、望ましい事項△

授業科目	単位数	配当年次	履修期	テーマと到達目標	DP1	DP2	DP3	DP4
解剖学Ⅰ	1	1	春	テーマ:運動器系の構造と機能についての理解 到達目標:骨や関節・靭帯・筋肉などの構造についての基礎力を確立し、運動器全体について生理学的機能を考慮しながら理解することを目標とする。	◎	○		
解剖学Ⅱ	1	1	秋	テーマ:神経系の構造と機能についての理解 到達目標:神経系の構造や仕組みについての基礎力を確立し、将来リハビリテーションに携わるうえで、関わりの深い神経疾患については病態生理を含めた実践的な理解ができることを目標とする。	◎	○		
解剖学演習Ⅰ	1	1	春	テーマ:循環器・消化器・呼吸器の構造と機能についての理解 到達目標:循環器・消化器・呼吸器の構造について各部位の名称を覚えることはもちろん、基礎的事項から臨床へ生きる知識へ、生理学的機能を考慮しながら理解することを目標とする。	◎	○		
解剖学演習Ⅱ	1	1	秋	テーマ:泌尿器系・内分泌系・感覚器系の構造と機能についての理解 到達目標:泌尿器系・内分泌系・感覚器系について各部位の名称を覚えることは勿論、基礎的事項から臨床へ生きる知識へ生理学的機能を考慮しながら理解することを目標とする。	◎	○		
生理学Ⅰ	1	1	春	医学の基礎知識として、「からだの働きとしくみを学び、生体の巧妙な機能を理解する」ことをテーマとし、臨床医学、作業療法学を学ぶ上での「基礎知識の習得、生体の機能を理解する上での思考パターンを形成すること」を到達目標とする。	◎	○		
生理学Ⅱ	1	1	秋	医学の基礎知識として、「からだの働きとしくみを学び、生体の巧妙な調節機能を理解する」ことをテーマとし、臨床医学、作業療法学を学ぶ上での「基礎知識の習得、生体の機能を理解する上での思考パターンを形成すること」を到達目標とする。	◎	○		
生理学実習	2	2	春	生理学の講義で得た知識を、「生体を使って実際に実験を行って、生体現象を肌で感じ、生きた知識とすること」をテーマとし、この過程で得た「科学的な思考力を養うとともに、実験データのまとめ方、レポートの書き方などを身につけること」を到達目標とする。	◎	○		
運動学	2	2	春	解剖学、生理学、物理学の理解のもと、人体の筋骨格系の運動様式を理解することを目的とする。人体の筋骨格系の運動様式を用い、作業療法士として必要な運動・作業の見方、考え方ができることを目標とする。	◎	○		
運動学実習	1	2	秋	運動学で学んだ知識をもとに、人間の基本動作や日常生活動作を運動学の知識を用いて説明できることをテーマに、実習を行い、運動学の基礎知識を用いて整理する。その上で作業療法の視点を加え考察することを目標とする。	◎	○		
運動発達学	1	2	春	テーマ:出生～幼児の姿勢および上肢の運動発達 到達目標:運動発達の一般原理、誕生から1年を経過する間の姿勢―運動の発達の概要、及び上肢の運動発達の概要を説明できること。	◎	○		
人間発達学	1	1	春	「人間発達学をリハビリテーション専門職の視点から学ぶ」ことが授業のテーマである。 到達目標は、胎児期から老年期までの各期における運動機能、認知機能、言語機能、情緒・社会性の機能の発達を説明できるようになることである。	◎	○		
病理学	1	2	春	病理学は基礎医学の総まとめであり臨床医学に入門するために必要な学問である。これまで学習した内容を総合して、病気の原因、発生の仕組み、経過、病気が辿る最終的な結末(転帰)といった病気の本態に関する基礎を学ぶ。医療に携わる者にとって、どんな職種であれ必要不可欠な学問である。本講義では病理学的な考え方を身につけ、臨床医学をさらに理解できることを到達目標とする。	◎	○		
臨床心理学	1	2	春	テーマ:人のこころの仕組みについて理解し、心理援助が必要な人々への心理学的援助に関する知識や方法を学ぶ。 到達目標:臨床心理学の基礎的な内容を理解し、心理援助に応用できる知識と実践的な態度を身につける。	◎	○		

授業科目	単位数	配当年次	履修期	テーマと到達目標	DP1	DP2	DP3	DP4	
専門基礎科目	内科学Ⅰ	1	2	春	広い範囲の医学の領域のなかで内科学は最も代表的な分野である。それを理解することにより医療従事者にとって必要な医学の基本的概念や考え方を身につけることができる。また、医学は日々進歩しており、内科学も同様である。本講義では内科学の基礎的な考え方や応用力を学び、さらに最新の知識も習得することを到達目標とする。	◎	○		
	内科学Ⅱ	1	2	秋	広い範囲の医学の領域のなかで内科学は最も代表的な分野である。それを理解することにより医療従事者にとって必要な医学の基本的概念や考え方を身につけることができる。また、医学は日々進歩しており、内科学も同様である。本講義では内科学の基礎的な考え方や応用力を学び、さらに最新の知識も習得することを到達目標とする。	◎	○		
	整形外科Ⅰ	1	2	秋	骨・関節、神経・筋の正常解剖を再学習する。 そして、これらに生じる疾病と外傷について、病態、診断法、一般的な治療と予後を知る。 臨床で用いられている専門用語を暗記する。 試験は、国家試験レベルよりやや易しい問題にし、50%の正解を到達目標にする。	◎	○		
	整形外科Ⅱ	1	3	春	骨・関節、神経・筋の正常解剖を再学習する。 そして、これらに生じる疾病と外傷について、病態、診断法、一般的な治療と予後を知る。 臨床で用いられている専門用語を暗記する。 試験は、国家試験レベルよりやや易しい問題にし、50%の正解を到達目標にする。	◎	○		
	臨床神経学	1	2	春	この授業の目的は、神経症状の検査法(神経診断学)と各種の神経疾患の臨床像(神経病学)の理解であり、国家試験に対応できるレベルの知識の習得を到達目標とする。このレベルは実際の医療現場で患者を診察するのに必要な最低限度の知識である。	◎	○		
	小児科学	1	2	秋	テーマ:小児の発達特徴と小児科疾患の病態生理及びその特異性を学ぶ 到達目標:小児期の成長と発達の特徴を理解して、胎児から乳幼児、学童、思春期への連続性と各時期における疾患特異性を理解する 小児疾患の病態生理を理解し、その特異性も学ぶ	◎	○		
	精神医学Ⅰ	2	2	春	1. 精神医学の基礎的事項・総論的事項を理解する。 2. 代表的な精神障害について、概念、成因、疫学、症状、検査、治療などについて理解する。 3. 精神障害特性を理解し、リハビリテーションにかかわる際の基本的態度を学ぶ。 4. 精神医学の歴史的な背景を理解する。 5. 精神医療保健福祉関連の法律の概要を理解する。	◎	○		
	精神医学Ⅱ	1	3	春	1. 精神医学の専門的事項を理解する。 2. 代表的な精神疾患について、概念、成因、疫学、症状、検査、治療などについて理解する。 3. 精神障害特性を理解し、特性に応じたリハビリテーションの専門的態度を理解する。 4. 精神医学の先端的研究・治療を理解する。 5. 精神医療保健福祉関連の法律の概要を理解する。	◎	○		
	臨床薬理学	1	2	春	「薬物の薬理作用とその作用機序、臨床応用、有害作用、薬物動態等について」をテーマとする。薬物に対する生体の反応についての基礎的知識を習得することができる。すまわち、薬の作用と有害作用(副作用)、循環器系に作用する薬、抗菌剤の抗菌スペクトルと有害作用、抗癌剤、抗うつ薬・抗精神病薬等の精神科領域の薬等の作用機序、有害作用、臨床応用等について習得することができる。	○	◎		
	公衆衛生学	1	2	秋	公衆衛生活動の目的は、その国や地域の優先する健康問題に社会資源を配分したり、健康格差を減らしたりする事により、効率的に社会の健康課題に取り組むことである。個人よりは集団を対象とし、個々の病気の治療よりもその病気や健康障害を起こりやすくしている環境や制度に注目する。身体活動や生活機能を個人の身体的精神的能力だけではなく、その人の持つ社会的能力やその人の暮らす社会の機能に注目して評価し働きかけようとする活動であり、学問でもある。また、現状や介入効果の評価を疫学や統計資料によって行い、その手法は学問的に精緻化されている。この科目では、公衆衛生の上記のような基本的考え方が身につくことが目標である。	○	◎		
	臨床栄養学	1	1	秋	健康と栄養との関わりについて理解し、食生活のあり方について考えることをテーマとする。 到達目標として ①栄養素の体内での働きについて理解する。 ②健康の保持・増進のために、何を、どれだけ、どのように食べればよいのかを理解する。 ③疾病と栄養の関係について学び、疾病の予防・治療・増悪化防止のための栄養食事療法について理解する。	○	◎		
	一般臨床医学	1	3	秋	OTにおいて、近年医療が急速に進歩する中で、専門分野以外の外科・産婦人科・皮膚科・眼科・耳鼻咽喉科等について、基本的な初期医療(プライマリーケア)に対応する能力の重要性が指摘されている。本講義ではそれらの基本的な考え方、知識を習得し、対応できる能力を高めることを到達目標とする。	◎	○		
	救命救急医学	1	3	春	「応急処置の基本と各場面における応急処置の実践」、「微生物学の基礎に基づく滅菌・消毒知識とその応用」をテーマとし、心肺蘇生術や理学療法士・作業療法士として実際の臨床現場で遭遇しうる救急疾患の病態、対処方法、感染症の基礎的知識および予防法について知り、理解すると共に、臨床現場で困らないだけの実践力をつけることを目標とする。	○	◎		
保健医療福祉概論	1	1	春	テーマ:学生は、対人援助職としての基本的な心得を学ぶことができる。 1. 学習者は、保健医療福祉従事者として必要な資質について理解し、今後の学生生活を通じていかにそれを育てていくべきかを把握できる。 2. 看護師、保健師、理学療法士、作業療法士、社会福祉士、精神保健福祉士などの仕事内容を理解できる。 3. 多職種連携のありかたについて理解を深めることができる。				◎	
リハビリテーション概論	1	1	春	4年間にわたり作業療法士になるための教育を受ける上で基本となるリハビリテーションの歴史、理念をまず身につける。その上で、秋学期の「リハビリテーション医学」を学ぶための基礎的知識を身につけることを目標とする。学生は大学で学ぶべき内容の概観を得ることができる。			○	◎	

授業科目	単位数	配当年次	履修期	テーマと到達目標	DP1	DP2	DP3	DP4
リハビリテーション医学	1	1	秋	春学期で学習した「リハビリテーション概論」の基礎知識を基に、2年次以降開講される専門科目をスムーズに学習できるリハビリテーションに関わる基礎知識を身につけることを目標とする。学生はリハビリテーションの対象となる主たる疾患の知識を身につけることができる。	○	◎		△
老年学	1	3	春	老年学は、老年医学、老年社会学、基礎老化学を3本柱とする総合人間学です。長寿科学は、高齢者や長寿社会に関して、自然科学から人文科学までの幅広い分野を総合的・学際的に研究する学問です。老年医学は、高齢者に特有な疾患の原因解明と診断・予防・治療について研究する臨床医学の一部門です。上記に加えて、臨床現場での高齢者医療の実際も理解してもらいます。	○	◎		
医療データオペレーションⅠ	2	1	春	現代の学生がコンピュータを学習・調査・研究に活用していく上で必要な「実地に役立つコンピュータリテラシーの習得」をテーマとする。具体的には、OSおよびネットワークの基本操作・ワープロソフトによる高度な文書作成・表計算ソフトによる基本的なデータ解析を習得する。到達目標は、①必要に応じていろいろな種類の文書が作成できる、②収集したデータを自由に活用できる、③データに基づいて、相手に訴えるようなプレゼンテーションができる、④正しく情報の発信ができることとする。	○	◎		
医療データオペレーションⅡ	2	1	秋	現代の学生がコンピュータを学習・調査・研究に活用していく上で必要な「実地に役立つコンピュータリテラシーの習得」をテーマとする。具体的には、OSおよびネットワークの基本操作・ワープロソフトによる高度な文書作成・表計算ソフトによる基本的なデータ解析を習得する。到達目標は、①必要に応じていろいろな種類の文書が作成できる、②収集したデータを自由に活用できる、③データに基づいて、相手に訴えるようなプレゼンテーションができる、④正しく情報の発信ができることとする。	○	◎		
医療データ解析演習	2	2	春	学生が在学中及び卒業後に調査・研究や実務を進める上で必要となる、「医療の実地に役立つデータ解析」をテーマとし、表計算ソフト(Excel)を用いてデータ集計から分析・統計解析、更にその活用ができるようになる。	○	◎		
実践医療英語	1	2	秋	授業ではリハビリテーションを中心とする医学分野で用いる専門的な英語表現を習得するとともに、臨床、研究のさまざまな場面で将来的に役に立つ英語力を身につけることを目標とする。	○	◎		
作業療法概論	1	1	春	作業療法士としての道に入ろうとしている学生にとって医療・保健・福祉の領域で作業療法をより広い視野で捉え、またその独自性と専門性を明確に理解できること目標とする。			○	◎
基礎作業学	1	1	秋	日常生活における人と作業の関わりの本質的理解を可能にする。また作業療法で用いられる作業活動の医療・保健・福祉の領域での実践的な展開を学習する。後半では実際の作業課題を通して作業活動に含まれる運動・動作・行為の側面、感覚・知覚・認知の側面、心理・学習・精神の側面の各要素の体験的理解を可能にする。	○	◎		
基礎作業学実習	1	2	秋	作業療法で治療手段として適応されることの多い手工芸や園芸について、その特徴および応用の仕方を福祉領域の対象者を通して学ぶことを目的とする。基礎作業学の延長で、様々な作業種目について知識を深めるとともに、対象者のその人らしい作業ができるよう、支援していく。		○	◎	
作業療法基礎演習Ⅰ	1	1	春	作業療法の基礎となる人体の構造について少人数による調べ学習、討論を行い、臨床医学を学ぶ上で必要な知識を修得する。	◎	○		○
作業療法基礎演習Ⅱ	1	1	秋	作業療法の基礎となる人体の機能について、少人数による調べ学習、討論を行い、臨床医学を学ぶ上で必要な知識を修得する。	◎	○		○
作業療法基礎演習Ⅲ	1	2	春	作業療法の対象となる疾患・臨床症状(神経疾患・内部障害等)について、少人数による調べ学習、討論を行い、作業療法評価・治療学を学ぶ上で必要な知識を修得する。	◎	○		○
作業療法基礎演習Ⅳ	1	2	秋	作業療法の対象となる疾患・臨床症状(骨関節疾患・精神医学等)について、少人数による調べ学習、討論を行い、作業療法評価・治療学を学ぶ上で必要な知識を修得する。	◎	○		○
作業療法学研究法	1	3	春	作業療法研究の実施に必要な基本的知識を習得する。		○		
作業療法学研究法演習	1	3	秋	作業療法学研究で必要な知識を習得し、実際の研究プロセスを体験する。		○	◎	

授業科目		単位数	配当年次	履修期	テーマと到達目標	DP1	DP2	DP3	DP4
作業療法管理学	作業療法管理学Ⅰ	1	3	秋	作業療法士として、実際の臨床・臨地に従事するために必要な概念と知識を学ぶ。作業療法業務における管理・運営、生涯教育と臨床教育、職業倫理について学習する。そして、実践場面における信念対立やリスクマネジメントに関して、適切な対応ができるように学習する。		○	◎	
	作業療法管理学Ⅱ	1	4	秋	作業療法士として、実際の臨床・臨地に従事するために必要な概念と知識を学ぶ。医療保険、介護保険に対する理解を深める学習を行う。さらに、リハビリテーション施設開設の実際についても学習する。作業療法に関連する法規について学習する。		○	◎	
作業療法評価学	作業療法評価学総論	1	2	春	「作業療法評価の理論と実際について学習する」ことをテーマに、1) 作業療法評価の基本概念について理解を深めること、2) 一部の評価について、具体的な実施技術を獲得すること、を目標とする。	△	○	◎	
	身体障害作業療法評価学	2	2	秋	テーマ: 身体障害分野で使用する評価法について学習する。 到達目標: 身体障害分野で使用する評価法について目的・方法を理解し、実践することができる。	△	○	○	◎
	作業機能障害評価学	1	2	春	本講義では、作業機能障害を評価する方法をまなぶ。作業機能障害は日々の生活上の問題であり、人間・作業・環境の連関で構成される。本講義では観察と面接を通して作業機能障害を評価し、エビデンスに根ざした介入計画の立案まで学習する。		○	◎	△
	精神障害作業療法評価学	1	2	秋	精神障害者に対する、面接・観察を中心とした作業療法評価の実践や臨床判断について学び、精神障害者の支援に関連する各種検査の特徴について学習する。作業療法評価の結果について、事例検討を用いた学習を行う。特に、対象者の作業遂行や環境による変化についての評価の講義は、評価の実践を通して、評価結果と作業療法との関連について学習する。	△	○	◎	
	画像診断学	1	3	春	レントゲン、CT、MRI、エコーなどの医用画像を評価することはリハビリテーション医療を行う上できわめて重要で欠かすことのできないものになってきている。セラピストにとっては身体所見を取るうえでも念頭に置くべき基本となる情報である。古典的なレントゲン読影の基礎から最先端の検査法まで教授するとともに実際にレントゲンフィルムを手にして読影の実習も行う。	◎	○		
人間と作業	1	1	春	テーマ: 学生は作業が健康と幸福に与える影響を理解できる 到達目標: 学生は 講義を通して作業とは何か、健康と幸福にどう影響を与えるかを理解できる		◎	○	○	
作業科学	1	3	春	本講義の目的は、作業療法理論および作業療法実践と理論のつながりについて理解を深めることである。特に、作業療法士として実践を論理的に説明できる力を養うことを目標とする。		○			
身体障害作業療法Ⅰ	1	3	春	身体障害領域において作業療法士が対象とする代表的な疾患について、各疾患の特徴・障害像・評価法・介入の基礎について学習する。脳血管障害、骨関節疾患、神経変性疾患の作業療法を中心に学習する。	△	○	◎		
身体障害作業療法Ⅱ	1	3	秋	テーマ: 学生は身体障害領域の疾患別作業療法が理解できる 到達目標: 学生は講義とグループワークを通して主な身体障害領域の疾患別の評価と介入が理解できる	◎	○	○		
身体障害作業療法演習	1	3	秋	身体障害に関して「基礎作業学」や「作業療法評価学」で学んだ関連事項をもとに作業療法の特性を生かした治療・指導・援助の方法を学習する。また、職業関連や日常生活に必要な作業遂行能力との結びつきについて学習する。加えて、喀痰吸引について学習する。	△	○	◎		
認知機能作業療法Ⅰ	1	3	春	認知機能障害の概念や各主症状について概説し、作業療法士が行う認知機能評価や介入法について学習する。各種評価法については、実習をとおして実施方法を学習する。また、事例をとおして認知機能障害への評価から結果の解釈まで学習する。	△	○	◎		
認知機能作業療法Ⅱ	1	3	秋	認知機能作業療法に従事するために必要な知識と技術を学ぶ。まず、治療の考え方について概説する。そして、実践場面における基本的な治療法に関して、講義・実技を行う。また、対象者を主体とした評価・治療に対する理解を深めるために事例検討を行い、脳画像や認知機能検査の解釈、治療計画の作成を行う。	△	○	◎		
精神障害作業療法Ⅰ	1	3	春	精神障害者に対する臨床判断や基本的態度について、精神障害者に対する歴史的背景について触れながら学習する。精神障害者の健康と社会参加について触れ、障害特性に応じた、作業提供時の注意点や配慮事項について学習する。作業選択や作業遂行と環境調整について学習し、精神障害作業療法の役割について学習する。	△	○	◎		

授業科目	単位数	配当年次	履修期	テーマと到達目標	DP1	DP2	DP3	DP4	
作業治療学	精神障害作業療法学演習	1	3	秋	精神障害者に対する臨床判断や基本的態度について、精神障害者の健康と社会参加について触れ、学習する。さらに、作業療法に関連する支援法についても学習し、チーム医療における精神障害作業療法の役割について学習する。	△	○	◎	
	発達障害作業療法学	1	2	秋	小児領域の作業療法について理解できる。学生は小児領域のリハビリテーションの歴史や対象疾患を理解し、それに併せた作業療法の評価と介入が理解できる。	◎	○	△	
	発達障害作業療法学演習	1	3	秋	発達障害作業療法学で得た知識を基に各疾患・障害をより深く理解し、疾病の症状、合併症、禁忌事項を学び、対象疾患それぞれに対応する作業療法評価を適切に選び、評価と治療計画を立てることができることを目的とする	△	◎	○	○
	高齢期障害作業療法学	1	3	春	作業療法の実践においては、クライアントの個別性を尊重した生活支援サービスを提供することが求められるが、役割の喪失期にある高齢者を対象とする場合は、生活満足感や主観的幸福感を高められるようなライフスタイルの構築を特に留意して援助しなければならない。本授業ではそのような援助方法を学生が理解できるようにすることをテーマとする。 本授業では、高齢クライアントの豊かなライフスタイル構築を支援するために、学生が身体的・精神的特性と主観的側面の多様性を認識し、適切な作業療法サービスの提供方法が理解できることを到達目標とする。	△	○	◎	
	高齢期障害作業療法学演習	1	3	秋	作業療法の実践においては、クライアントの個別性を尊重した生活支援サービスを提供することが求められるが、役割の喪失期にある高齢者を対象とする場合は、生活満足感や主観的幸福感を高められるようなライフスタイルの構築を特に留意して援助しなければならない。本授業ではそのような援助方法を学生が理解できるようにすることをテーマとする。 本授業では、高齢クライアントの豊かなライフスタイル構築を支援するために、学生が身体的・精神的特性と主観的側面の多様性を認識し、適切な作業療法サービスの提供方法が理解できることを到達目標とする。	△	○	◎	
	日常生活活動学	1	3	春	「日常生活活動の理解と援助方法について学習する」ことをテーマに、1) 日常生活活動の概念を理解すること、2) 日常生活活動の評価を把握すること、3) 日常生活活動の援助方法について実際に行えること、を目標とする。		○	◎	
	日常生活活動学演習	1	3	秋	日常生活動作(主に起居、移乗、移動動作等)の学習、分析、実技を学生同士で実際に行う。障害者の自立支援、動作指導、介助、介助指導等が専門である作業療法士を目指す学生に、この分野で学習する知識、技術が臨床場面で生かされることが目標である。		○	◎	
	義肢装具学	1	3	春	義肢装具を用いた作業療法についての基礎知識及び技法を得ることを目的とする。具体的には、義手・義足を中心とした義肢に触れ作製手順、装着、適合判定等を学習する。補装具に関しては、頸部・体幹・上肢・下肢装具、また車椅子や環境整備を含めて治療や生活の自立を学ぶ。	△	○	◎	
	作業療法臨床技能演習	1	3	秋	総合臨床実習で必要とされる知識・技術の習得を図る。総合的知識は臨床実習に必要な基礎科目、臨床医学、作業療法治療学についてグループ学習を行う。基本的技能・態度の習得のため、模擬患者に対し作業療法の評価を実施する。	△	○	◎	○
	作業療法実践演習Ⅰ	1	3	秋	臨床実践で必要となる面接・観察・検査測定技術向上を目的とする。場面を想定しての実技・演習を行い、実践力の向上を図る。		○	◎	
	作業療法実践演習Ⅱ	1	3	春	臨床実践で必要となる面接・観察・検査測定技術向上を目的とする。精神障害領域の対象者への実践と振り返りを行い、実践力の向上を図る。		○	◎	
	作業療法総合演習Ⅰ	1	4	秋	作業療法全般に関する知識および技術の確認をすることを目的とする。 具体的には、作業療法士国家試験および初期臨床業務に対応できる知識・技術を習得する。	◎	○		
作業療法総合演習Ⅱ	1	4	秋	作業療法基礎科目、作業療法専門科目について、講義・グループ学習し、国家試験に必要な知識の習得を図る。	◎	○			
地域作業療法学特論	1	3	秋	本授業では、地域で生活するクライアントのQOLを支援するために必要な概念や法制度、アセスメント方法を理解し、作業療法の視点から地域に貢献するために必要な技術とは何かを知ることを目的とする。	△	○	◎		
生活環境学	1	3	秋	作業療法においては、クライアントのQOLを改善するために、生活機能と相互作用するとされる環境因子へのアプローチが非常に重要と考えられている。 本授業では、クライアントの生活環境を支援するために必要な技術を、福祉用具と住環境の視点から理解することを目的とする。ここでは、学内外の機器・設備を積極的に利用し、幅広い知識を身につけることが期待される。		○	◎		

授業科目	単位数	配当年次	履修期	テーマと到達目標	DP1	DP2	DP3	DP4	
地域作業療法学	就労支援学	1	3	秋	「人は何のために働くのか」をテーマとして、障害者の就労支援について、医療的側面と福祉的側面の両面から学び、職業リハビリテーションに関する問題の解決を自ら考え、行動に結びつけるための能力を身につける。具体的には、①ICFにおける職業関連活動の位置づけを理解する。②「障害者と職業」では、障害者に関する基本的知識を習得し、職業関連活動の問題点を理解する。③「職業関連活動に対する作業療法」では、職業関連活動における作業療法支援法の理論と介入方法を理解する。④精神障害、身体障害、高次脳機能障害、知的障害について具体的な作業療法のプロセスを理解する。加えて、⑤厚生労働省編一般職業適性検査を的確に実施できる技術を身につけることを到達目標とする。		○	◎	
	ヘルスプロモーション	1	4	秋	老年期障害のリハビリテーションをすすめる上で、高齢者の身体機能、精神機能、日常活動、心理、社会などを総合的に理解・把握させ、適切な治療・指導・対策が実際の場面で実施できることを教授目標とする。			◎	○
	リハビリテーション工学	1	4	秋	「理学療法士・作業療法士として実践の場で必要となる福祉用具を理解する」をテーマとして、その現状を学び、福祉用具利用に関する療法士としての立場を自ら考え、新しい用具を創り出すための発想力を身につける。 具体的には、単なる座学のみではなく、ディスカッションも交えて授業を行い、①福祉用具の現状の理解、②利用者像を鑑みた新しい福祉用具への要求を発想する能力、③国家試験に役立つための実践的な福祉用具と療法の関係性について自ら考え・判断できるようになることを到達目標とする。		○	◎	
	地域レクリエーション演習	1	1	春	本講義では、いわゆる「福祉レクリエーション」の領域に軸足を置いた内容を教授する。授業では特に「地域在住の中～高齢者を対象とした心身の健康における維持・増進」ならびに「通所系・入所系施設を利用されている対象者におけるQOLの向上」に資する内容(理論・実技)に視座した教育を展開する。		◎	○	
	中山間地域健康増進演習	1	1	秋	吉備国際大学の所在地である岡山県高梁市は「中山間地域」という地域属性であり、高齢化率の著しい増加とともに「通いの場の少なさ」に伴う地域在住高齢者の方々における「ICFでいうところの参加」の機会の減少が懸念されている。本講義では、高梁市介護保険課が主幹となって運営されている複数の地域包括ケアシステムに関連している事業を題材として、特に「中山間地域における理学療法士の存在意義やかわり方」について、中山間地域事業への参加体験や見学を交えながら学びを深めていく。		◎	△	○
臨床実習	総合臨床実習	16	4	春	大学内の講義・実習・演習および臨床評価実習で得た知識および技術を基盤とした作業療法を対象者に対し指導者の指導のもと実践する。具体的には、病院・施設等の臨床実習施設において、作業療法の評価から援助に至るまでの基本的機能・能力・活動全般にわたる知識および技術の習得を目標とする。		○	◎	
	臨床評価実習	4	3	春	対象者および疾患に応じた評価の流れを理解し、学外施設で実習を行う。 与えられた症例について、臨床実習指導者の指導を受けながら、評価計画を立案し、評価を実施、問題点の抽出・治療プログラムの立案・ゴールの設定について経験と学習をする。将来の臨床家としての適切な行動の基礎を身につけ、実習後セミナーにおいて実習経験の報告を行う。実習後セミナーでの質疑には適切に対応することができる。		○	◎	
	臨床見学実習	1	1	春	テーマ:学生が、作業療法実践場面を見学することにより、作業療法士になるための自覚を促し、専門的な学習に対する意欲を高める。 到達目標:学生は、①実際のサービス提供場面に接しながらリハビリテーション施設の体系を学ぶことができる、②他職種の中での作業療法の基本的な役割について理解する、③作業療法関連サービスの全体像を可能な限り把握する。		○	○	◎
	地域作業療法実習	1	3	秋	地域で生活するクライアントのQOLを支援する作業療法の実践について学ぶ。実習施設は、通所・訪問リハビリテーション事業所とし、生活行為向上マネジメントによるアセスメントとプラン作成を経験する。また、有意義な経験となるよう、必要な学内指導と実習後の報告会を実施する。		○	◎	
	医療保健福祉施設体験実習Ⅰ	1	1	春～秋	作業療法の周辺領域で働く職種の役割について、実際の体験を通して学習する。また、対象者(障がい者や高齢者、およびその家族)と接することによって、専門職としての人間関係作りについて学習する。		○	○	◎
	医療保健福祉施設体験実習Ⅱ	1	2	春～秋	学生は、医療・保健・福祉分野の施設で、実際の体験を通して作業療法士の位置づけを学習することができる。 学生は、社会人として医療・保健・福祉分野における実践していくにあたり必要な行動は何であるかを見据え、行動することができる。		○	○	◎
	医療保健福祉施設体験実習Ⅲ	1	2	春～秋	学生は、医療・保健・福祉分野の施設で、実際の体験を通して作業療法士の位置づけを学習することができる。 1. 医療・保健・福祉分野の施設における他専門職者の役割を具体例をもって説明ができる。 2. 医療・保健・福祉の対象者と接し、どのような問題を抱えているのかを理解することができる。		○	○	◎
	医療保健福祉施設体験実習Ⅳ	1	3	春～秋	3年春学期までに学習した知識と技術を統合し、臨床場面での体験学習を行う。この科目の主たる内容は、指導者とともに対象者に応じた臨床評価を実施し、問題点の抽出を行う。また、臨床現場での記録・報告等について経験し学習する。		○	○	◎